

職員による自己評価

【A環境面】

・事業所を移転し、広いスペースで支援を行うことができています。相談スペース、静養スペースなども整備することができました。送迎時等に人員の不足を感じることもある。4月から新しく職員を2名配置予定。

【B児童への支援内容】

・保護者面談をしたうえで個別支援計画を作成し、職員間で情報を共有して連携しながら日々の支援を行っている。職員間で共通認識を持って支援を行っている。送迎からの帰社後に打ち合わせや振り返り等を行う時間は少ないことがある。

【C関係機関との連携】

・相談支援事業所は現状利用者がいない。学校との連携は送迎時に情報共有を行っている。近隣施設用、地域との連携は取れていない。

【D保護者への説明責任・信頼関係】

・保護者と常に連絡が取れる体制は取れており、必要に応じて適宜個別に対応することができている。活動としてのペアレントトレーニングや保護者同士の連携の機会は持っていない。

【E非常対応】

・各種マニュアルの策定・委員会の設置など、法人で行うことができおり、情報を職員間で共有している。

保護者による評価

【A環境面】

・移転後、支援スペースは十分な広さがある。
・職員配置、構造化等はわからない。

【B児童への支援内容】

・児童に合わせた放課後等デイサービス計画が作成され、計画に沿った支援が行われている。
・曜日でプログラムが決まっているため見通しが立てやすい。内容には変化があり飽きにくい。
・児童は通所を楽しみにしており、支援の内容にもおおむね満足している。
・外部の児童との交流があるかわからない。

【C事業所からの情報発信】

・利用に際してや支援のことについて等、丁寧に説明がされている。事業所との情報共有もできている。
・ペアレントトレーニングや保護者同士の交流の機会がない。

【D非常対応】

・各種マニュアルの策定、避難訓練等は実施されている（と思われる）が、実際に目にしていないものはわからない。

事業所内での分析

【共通点】

・事業所は十分な広さがある。
・適切な個別支援計画が作成されている。
・児童は通所を楽しめている。
・地域との連携は少ない。
・事業所から保護者への情報発信はできているが、ペアレントトレーニングや保護者同士の交流の場が作れていない。

【相違点】

・職員の配置や教室の構造化など、わからないところがある。
・各種マニュアル策定や防災訓練など、わからないものがある。

分析・検討してみても…

事業所の強み

- ・適切な環境で支援が行えている。
- ・児童が通所を楽しめている。
- ・保護者との連絡体制が整っている。
- ・個別計画の作成、計画に沿った支援やその説明などが適切にできている。

事業所の改善点

- ・職員配置がまだ十分に整っていない。
- ・ペアレントトレーニングや保護者同士の連携の場がない。
- ・地域への参加・連携が少ない。
- ・各種マニュアル策定や防災訓練等の説明が不足している。

事業所の改善への取り組み

- ・職員は4月から新たに2名配置予定。安定して勤務できる環境を整える。
- ・見学週間や授業参観のように、支援の様子を見学できる機会を作り、同時に保護者同士のつながりの場としていきたい。
- ・各種マニュアルや訓練の実施など、できていることをアピールすることで安心感を持って利用を継続してもらう。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

事業所を移転したことで、環境面については大幅に改善できた。
保護者との連絡体制については継続できており、直接的な支援に関しては満足いただけていると思われる。
保護者同士の連携やペアレントトレーニングについて実施できていない部分があるので、計画を行い改善が必要。

事業所名 クオリティ・オブ・ライフ保土ヶ谷支援教室
担当者 原田 大和